

歿した。

トミナガマサヨシ 富永全昌 通稱數馬。

元祿四年養父久兵衛昌親の遺跡三百五十石を襲ぎ、表小將御使番・定番馬廻頭等の職に當り、享保九年二百石を加へ、寶曆九年又五百石を増して千五十石となり、人持組に列し、十三年致仕、名を晩靜と稱した。明和元年正月七日歿、享年七十八。稽古紀聞・全昌武貞問答・榮辱雜記等の著がある。因に全昌を往々金昌に作るものは誤である。

トミナガミクリ 富永御厨 石川郡に在つた。

神鳳鈔に、『富永御厨、二宮、二百餘町、内宮上分三十石、口入百二十石、外宮上分十石、魚五十隻、雜用米四十石。』とあつて、二所大神宮の神領であつた。又元弘三年七月廿三日の宣言には、加賀國富永御厨を臨川寺領として管領せしめることが見え、又伏見宮家文書には、故太宰帥親王御遺領富永御厨が地頭の爲に押妨せられたことを記してある。

トミナガミクリヤシンメイシヤ 富永御厨

神明社 石川郡寺中なる大野湊神社境内末社として存する。式内等舊社記に、『富永御厨神明社。大野郷寺中村鎮座。舊社也。』とある。

トミノシンベエ 富野新兵衛 初めて前田

氏に仕へた。子又吉は二百石を領し、寶永四年に歿。六代駒之助の時、幼少で祿三の一中死し、明和元年家斷絶した。

トミモチヨウ 富本町 金澤の町名。名

稱の由來は詳かでないが、元は法船寺町の小名でもあらう。

トミヤスシヨウ 富安庄 建久二年十月の

注進御莊一年中課役事に富安莊、後白河院長講堂領目錄に加賀富安莊と見えるが、この庄

の所在は明白でない。

トミヲカトヨゾウ 富岡豐藏 大聖寺藩の

御歩で、元祿三年召出され、武山源内と稱して五人扶持を受け、四年二十五人扶持に進み、寶永七年二月歩目付に任じ、同月老臣村井主殿が切腹を命ぜられた時之を介錯した。正徳五年その子佐七郎罪を得た爲、歩目付の職を止められ、姓を富岡と改め、享保十六年御歩小頭となり、寛保元年老年の故を以て免ぜられ、延享二年四月七十五歳で歿。

トムロイシ 戸室石 河北郡戸室山から出

ず石材。龜尾記に、この石の切出しは、文祿元年二月前田利家上洛中、利長に金澤城の普請を命ぜられ、石垣用の石材を得たに初るが、その頃の丁場は詳かでない。利常の時には中山村領から出し、自ら人夫を督した所として中納言山といふがある。今は清水村領に丁場があつて、藩の御歩を出しその用を勤めると記する。しかし現時では専ら田、島領から採掘する、戸室石には紅色なると青色なるとがあり、前者は紅色石基中に白色斜長石及び白黒色角閃石を有し、後者は青色石基中に同様の斑点を存し、赤戸室、青戸室と呼んでゐる。金城深秘録に、赤石一尺六方目方十七貫二百目、水に漬七百目増。青石一尺六方目方十八貫四百目、水に漬四百目増と見える。

トムロゴンゲン 戸室権現 ↓トムロヤマ

戸室山。

トムロシミツ 戸室清水 河北郡に屬する

部落。明治中小坂庄の清水を戸室清水に改めた。

トムロナカヤマ 戸室中山 河北郡に屬す

る部落。明治中金浦郷の中山を戸室中山に改めた。

めた。

トムロベツシヨ 戸室別所 河北郡小坂庄

に屬する部落。寶曆の調書に、この領の持山に權現屋敷といふがある。又馬池と稱して二間四方のものがあり、昔寺坊の在つた所であると記する。

トムロヤマ 戸室山 河北郡の南部に在る。

高さ五四八米。地質角閃安山岩。金城深秘録に、戸室山は田、島領であり、石切丁場の石材並びに一山を田、島村に預けて番人を命ぜられてゐるとし、龜尾記には、戸室とは泰澄が醫王山禪定の時に、内外の室があつた中の外室で、山頂に戸室権現の小祠があると記する。戸室権現はまた飛鶴權現ともいうた。↓
トブロンゲン 飛鶴權現。

トムロヤママツリ 戸室山祭 藩政の時二

月十日に戸室山祭が行はれた。河北郡戸室山の神靈即ち所謂飛鶴權現の祭である。

トメガキ 留書 藩政中各役所の書記の職

に當る者を留書といふた。但し年寄中席に限る、執筆と稱して留書とは言はなかつた。

トモアヲ 伴阿男 三代實録に貞觀八年九

月伴善男等が應天門を焼いた罪に座し、從五位上下野守伴宿禰阿男は能登國に配流せられたとある。
トモイヘ 友家 加賀の刀工。藤島一派で、文明の比の人。友家と切る。
トモオサヘ 供押 藩侯旅行の行列には、最後に御供押さへといふ者が五人許居た。身長六尺に近き巨漢を擇び、更にその戴く晴笠の笠簾(頭上に當る部分)を特に高く製し、太き堅縞の袴羽織を着せしめた。身分は定番御歩である。

トモカゲ 友景 加賀の刀工、友景と切る。永正頃。

トモキヨ 友清 加賀の刀工。古刀期で友清又は藤原友清と切るものは應安比の人。新刀期では加州住藤島大塚友清と切るものがあつて、寛永頃の人。

トモキヨ 知清 加賀の刀工。橋知清と切る。陀羅尼一派に屬する新刀であるが、年代不明である。

トモサダ 友定 加賀の刀工。加州藤原友定と切る。永正頃。

トモサダ 友貞 加賀の刀工。藤島友貞と切る。天保頃。

トモシゲ 友重 加賀の刀工。その初祖は來國俊の門下で、本國越前、石川郡泉村に來住したといはれる。友重・藤島友重又は藤島と切り、建武頃の人。又友重・藤島・藤島友重と切つて貞治頃なるものもある。又加州藤原朝臣藤島友重應永二年・藤島友重應永三年・應永十年と切るものもある。又友重・藤島友重・藤原友重と切りて文明頃なるものもある。又加州住藤島友重天正八年と切るものもある。凡そ應永前から天正に至るまで幾代あるかは不明である。次いで新刀期に至りては、加州藤島友重・加州藤原友重と切つて元和頃と認められるもの。加州住藤原友重承應三年八月・加州住次兵衛藤島友重延寶四年八月と切るもの。賀州金澤住三郎右衛門尉藤原友重享甲子歲八月吉日と切るものがあり、是に至つて絶家した。

トモチカ 友近 加賀の刀工。加州白津住友近と切り、慶長頃の人と古今鍛冶備考には記してゐるが、白津といふのは明らかでない。

トモツグ 友次 加賀の刀工で藤島一派に